

静岡県東部地域企業経営動向調査

(2016年4-6月期実績、2016年7-9月期見通し)

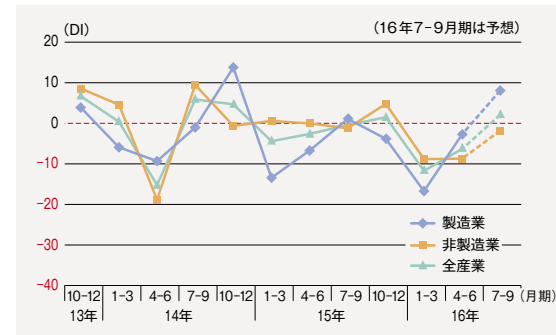
1 業況概要(自社)

全産業DIはやや回復もマイナス水準が続く

静岡県東部地域における2016年4-6月期の業況判断DI(対前期比)は、全産業で-6.3(前期-11.7)とやや回復に転じるも2期連続でマイナス水準となった。製造業は、食料品、金属製品、パルプ・紙・紙加工品の上昇により、全体のDIも-2.7(前期-16.7)と上昇した。一方、非製造業は、卸・小売・サービス業全体では上昇したが、旅館・その他宿泊所や建設業で低下したため、-8.7(前期-8.8)と横ばいで推移している。

2016年7-9月期の予想DI(今期比)は、全産業で2.1となっている。業種別では製造業で8.1と改善の期待が強く、非製造業でも-1.8と上向きの予想に

なっている。



業種別天気図



(2016年1-3月期と4-6月期は前期比、7-9月期は今期比予想)

	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2016年1-3月期	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️
2016年4-6月期	☁️	☀️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️
2016年7-9月期	☁️	☀️	☀️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️

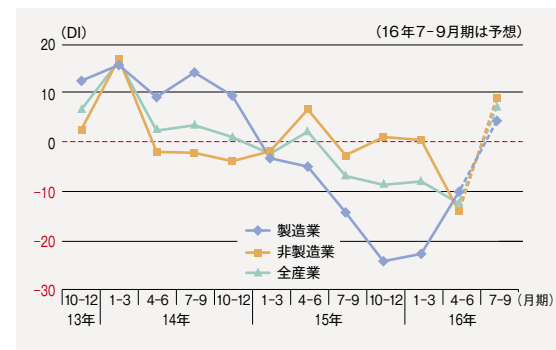
2 売上動向

製造業は回復傾向も、非製造業は大幅に低下

2016年4-6月期の全産業の売上動向DI(対前年同期比)は-12.3(前期-7.8)と低下に転じた。製造業では、食料品(0.0)や金属製品(-26.7)、パルプ・紙・紙加工品(0.0)で上昇したため、全体では-9.9(前期-22.5)と10ポイント以上回復した。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所(-19.0)や建設業(-13.0)など各業種でDIが下降したため、全体でも-13.9(前期0.6)と大幅に低下している。

2016年7-9月期の予想DI(今期比)は、全産業で7.4となり、上昇への強い期待がみられる。うち、製造業は4.5と改善傾向の継続が予想され、非製造業でも9.2

と大幅な反転上昇が期待されている。



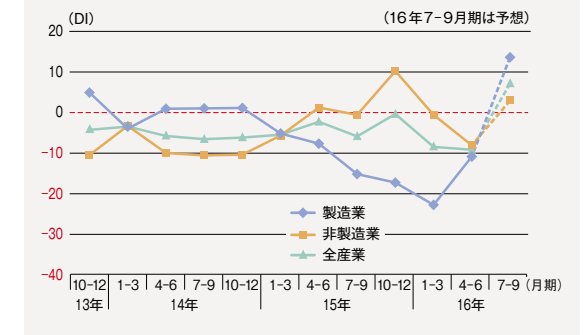
3 利益動向

製造業はDIが上昇に転じる、非製造業は2期連続で低下

2016年4-6月期の全産業の利益動向DI(対前年同期比)は-9.2(前期-8.5)とわずかに低下した。製造業では、食料品(5.9)と金属製品(-26.7)で大幅な改善がみられたことから、全体では-10.9(前期-22.8)と6期ぶりに上昇に転じた。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所(4.8)などはほぼ横ばいで推移したが、建設業(-13.0)で大幅な低下に転じたため、全体では-8.1(前期-0.6)と2期連続での低下となった。

2016年7-9月期の予想DI(今期比)は、全産業で7.1となっている。業種別では、製造業で13.6、非製造業で2.9といずれも今期比大幅な上昇を見込んで

いる。



4 経営上の問題点

「人材の育成」「求人難」の割合が前期に続き上昇

「人材の育成」と「求人難」の回答割合は前期に続き上昇しており、特に「人材の育成」は「受注・売上の停滞・減少」をわずかに上回って、最も高い割合と

なった。また、「従業員の高齢化」の割合も上昇に転じている。一方で、「過当競争・製品安」と「原材料・仕入商品の値上がり」の割合は今期も低下傾向にある。

(単位:社、%)

	15年10-12月期		16年1-3月期		16年4-6月期		順位変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 人材の育成	102	37.6	114	40.1	139	48.9	↑
2. 受注・売上の停滞・減少	138	50.9	140	49.3	137	48.2	↓
3. 従業員の高齢化	98	36.2	86	30.3	97	34.2	→
4. 求人難	64	23.6	75	26.4	84	29.6	↑
5. 過当競争・製品安	80	29.5	78	27.5	72	25.4	↓
6. 人件費の増加	62	22.9	73	25.7	69	24.3	→
7. 生産・販売能力の不足	56	20.7	53	18.7	58	20.4	↑
8. 原材料・仕入商品の値上がり	65	24.0	57	20.1	47	16.5	↓

調査の概要

1. 調査目的 静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
2. 調査対象企業 静岡県東部地域に立地する企業460社 回答数284(回答率61.7%)
3. 調査方法 当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
4. 調査対象期間 実績:2016年4-6月期 見通し:2016年7-9月期
5. 調査時点 2016年5-6月

DI:ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

※この他、今回は「熊本地震の影響・BCP(事業継続計画)の策定状況」についても調査しています。調査結果は弊所ウェブサイト <http://www.srgi.or.jp> をご覧ください。